

# 大**中**PRIDE



大津町立大津中学校  
生徒指導通信 8号

令和5年6月7日(水)  
文責：岡村 康平

## 『逆境を乗り越えろ』



6月23日(金)からいよいよ菊池郡市中体連が始まります。どの部も毎日本気で取り組んでいると思います。3年生は集大成の大会です。本当に悔いが残らないように、最後まで取り組んでほしいと思います。今回は私が中学3年生のときの中体連の出来事を綴りたいと思います。

私の母校は部活動がとても盛んで、全国大会に出場する部が多かったです。私は副キャプテンを務めており、中学1年生の時から、挨拶・返事・時間厳守・道具を大事に使うこと・先輩を敬うこと等、多くのことを学んできました。プレーだけではなく、日々の生活の大切さもこの時期に培いました。平日は夕方の練習が終わった後に、近くの体育館で夜練。休日は2部練や3部練。合宿で高校生と練習試合をするのは当たり前でした。私自身も中学校時代の思い出は「部活動」と今でも言えるほど、のめり込んでいたと思います。顧問の先生からも、時には厳しく指導していただき、心も身体も成長したと思います。

そんな日々が続き、いよいよ3年生。中体連を迎えました。郡市中体連大会は優勝。郡市の代表として、県中体連に出場することが決まりました。県中体連も優勝を目標に掲げ、チーム全員で一致団結し、日々の練習に取り組んでいました…。中体連前日の練習。練習の中で後輩と接触するアクシデントが起きました。ぶつかった瞬間、私は足に力が入らず、その場に崩れ落ちました。その後も立とうとしますが、力が入らず立てません。母が迎えにきてくれ、病院に行くことになりました。病院での診断の結果は「靭帯断裂」。松葉杖をつくことになりました。悔しくて、悔しくて、涙が止まりませんでした。これまでの努力は何だったんだろう。何のために頑張ってきたのかな。何度も何度も考えました。その夜、ぶつかった後輩から連絡がありました。「先輩、本当にすみませんでした…。」電話越しにも、泣いて謝っているのが分かりました。「大丈夫よ。明日は頑張ろうな。」スポーツに怪我はつきものです。仕方のないことではあります。しかし、そう返したものの、とても辛かったです。

県中体連当日、チームのみんなも怪我のことを知っていました。私は朝から監督のところに行きました。「自分は試合には出られません。自分の分のユニフォームを試合に出られる人に渡してください。お願いします。」そう言おうと前日の夜から決心していました。しかし、監督は、「ユニフォームを着て、ベンチで今できることをやろう。チームも康平のために全力を尽くす。康平もチームのために今できることを全力でやるんだ！」今の自分にできること。それは全力で仲間をサポートし、全力でベンチから応援し、副キャプテンとして全力で後輩たちに先輩としての姿を見せ、全力で3年間やってきたことをぶつける。そう考えました。最後の中体連は出場できずに終わりましたが、試合後に「お前がいてくれて本当に良かった。」と心から言い合える仲間がそこにはいました。

スポーツの世界に勝敗はつきものです。勝ったチームは勝ち進み、負けたチームの3年生は引退し、新チームに移っていく…。しかし、勝ち負け以上に、これまでの日々はあなたにとって大事な宝物になっているのではないのでしょうか。仲間と一緒に一生懸命練習してきたことは本当にかげがえのないものです。怪我をした瞬間、私は本当に後悔をしましたが、この経験があったからこそ、今の私があると思います。

今、あなたはどのような状況に置かれていますか？置かれている状況は人それぞれ違います。ひょっとすると今、困難に直面している人もいるかもしれません。もちろん、困難から逃げることもできます。しかし、逃げることは簡単なことだと私は思います。逃げたとしても人として成長はないと思います…。

## 『逆境を乗り越えろ』

失敗してもいい。前を向いて、これまでやってきたことを、どんな形だろうと全力で出し切る。

今、あなたにできることは、あなたにしかできないことかもしれないから。